暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

～第一八八号～

寒露　十月八日

宇治橋の大鳥居

内宮の玄関口である宇治橋。その両端に立つ大鳥居が新しくなりました。宇治橋自体はすでに平成二十一年十一月の渡始式の際に新しく架け替えられましたが、二基の大鳥居はそのままでした。なぜなら、内宮、外宮の御正殿の棟を支える棟持柱が再利用されるからです。遷宮後、旧殿は解体がなされ、全国の神社などに払い下げられますが、最も太い棟持柱は宇治橋の大鳥居として、今度は内宮の玄関口で参拝者を迎えることになります。二十年に一度、社殿を新しく建て替える遷宮はヒノキ約一万本を使用します。「もったいない」といわれてきましたが、徹底した再利用が行われることが知られるようになり、むしろ木材のリサイクルのシンボルと称されるようになりました。

前回の第六十一回式年遷宮の際は、平成六年の十二月に新しくされました。十二の別宮の遷宮が終わったあとのことでした。

今回は、別宮の遷宮の始まりを告げるように、十月三日の朝九時から、「くぐり始め」のセレモニーが行われました。鳥居に笠木がつけられた後、神宮関係者や地元をはじめ、亀山市関町と桑名市の人々も加わっての「くぐり始め」。この大鳥居は今度、内側（神域側）は関宿の旧伊勢別街道の分岐点へ、外側は桑名の七里の渡し跡へ移されます。かつての伊勢国の玄関口で人々を迎えるわけです。歩き旅でなくなった今では、そこに参拝者が訪れるのは少なくなりましたが、それでも宇治橋の大鳥居は移され、二十年立ちます。それはお伊勢参りの人々を迎えてきた両町の誇りであるのでしょう。

この秋は、宇治橋の大鳥居を「くぐり始め」、参拝をする楽しみが続きます。

文　千種清美

伊勢内宮前　おかげ横丁